

2025年度 徳島文理大学看護学科 卒業生アンケート調査結果

調査概要

○調査目的

このアンケートは、看護学科のディプロマポリシー（卒業認定・学位授与基準）がどの程度身についているかを評価するとともに卒業生から本学科教育への様々な意見を聴取することを目的として実施しました。

病院入職後 2~4 年目を迎える卒業生は、現在の臨床現場での業務と大学での学びをリアルに結びつけて考えることができるとともに、別途実施した雇用者（病院）向けアンケートの結果と合わせて検討することで、今後の本学科教育の改善に生かすことができると考えております。

○調査対象

2022年3月から2024年3月までの卒業生

○調査期間

2025年8月22日（金）～2025年9月12日（金）

○調査方法

入職先の病院へアンケート用紙を郵送。回答はGoogleフォームを利用。

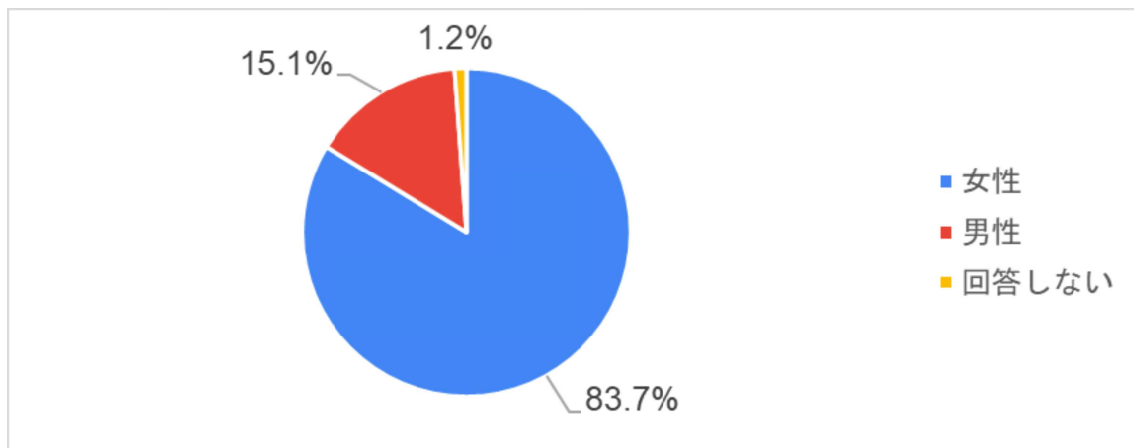
○回答率

86/245（35.1%）

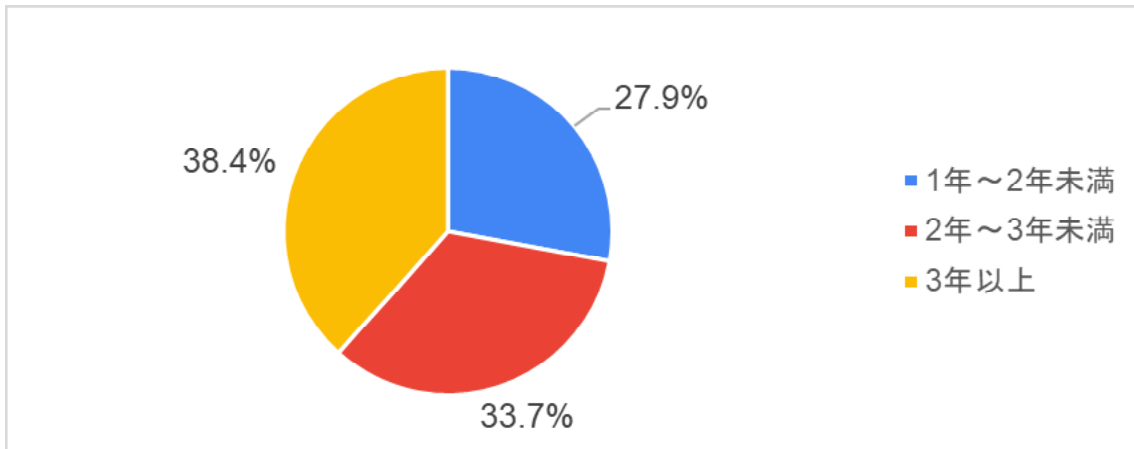
基本情報

該当する選択肢を選んでください。

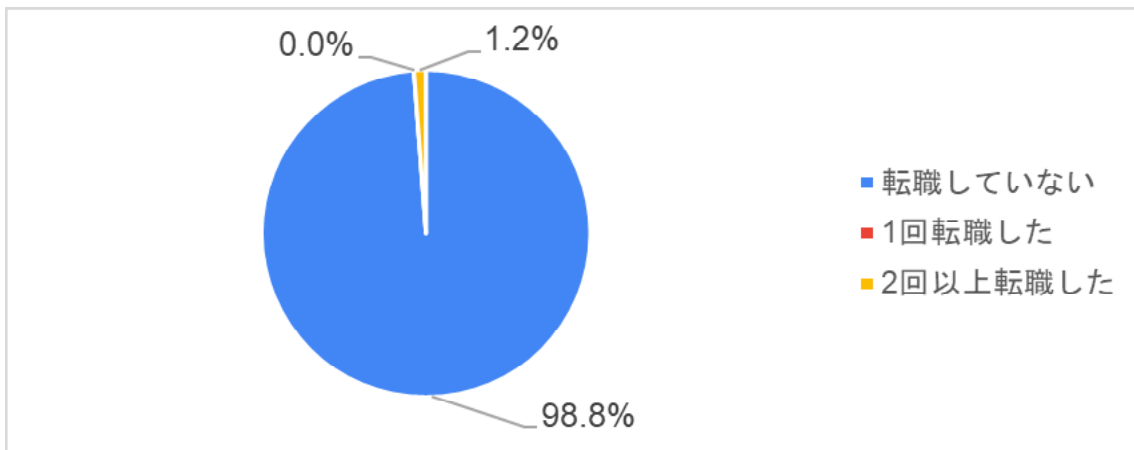
①性別



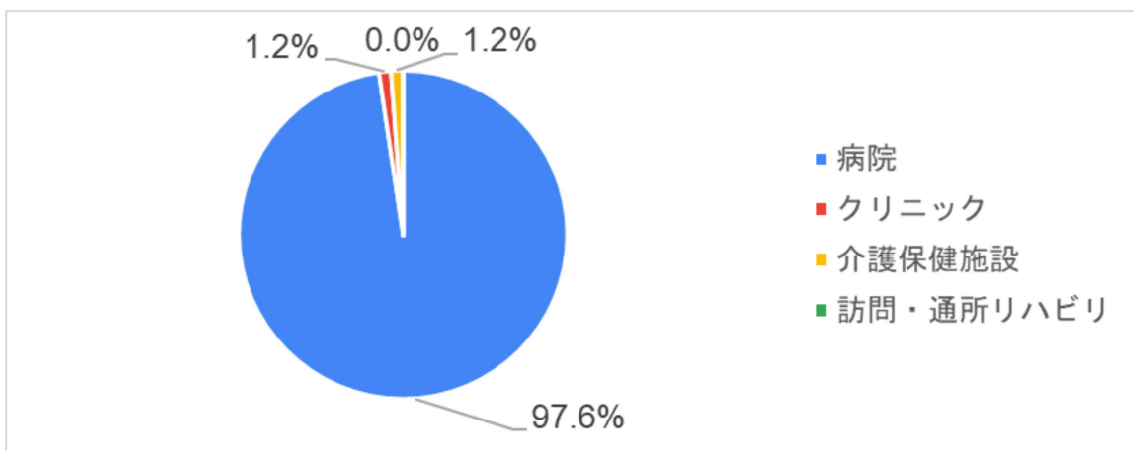
②卒業後年数



③転職の有無



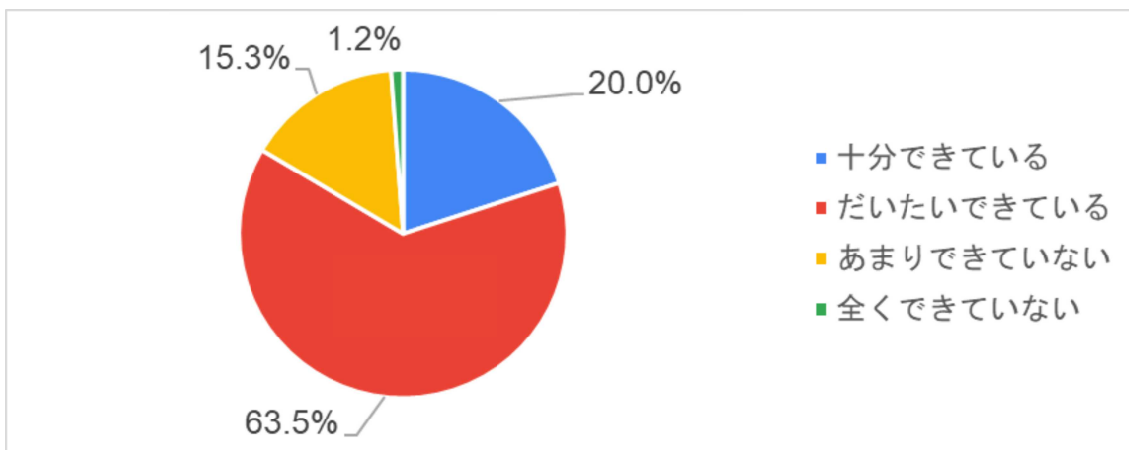
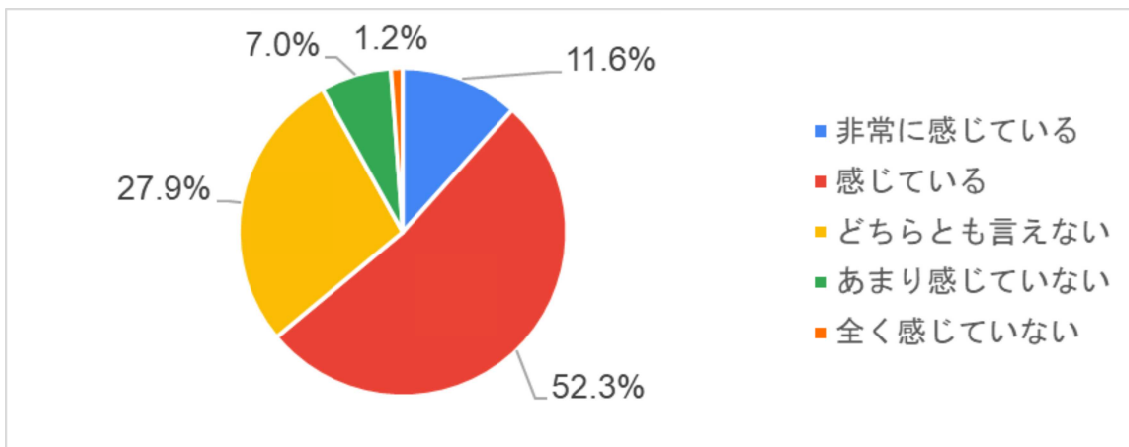
④現在の職場



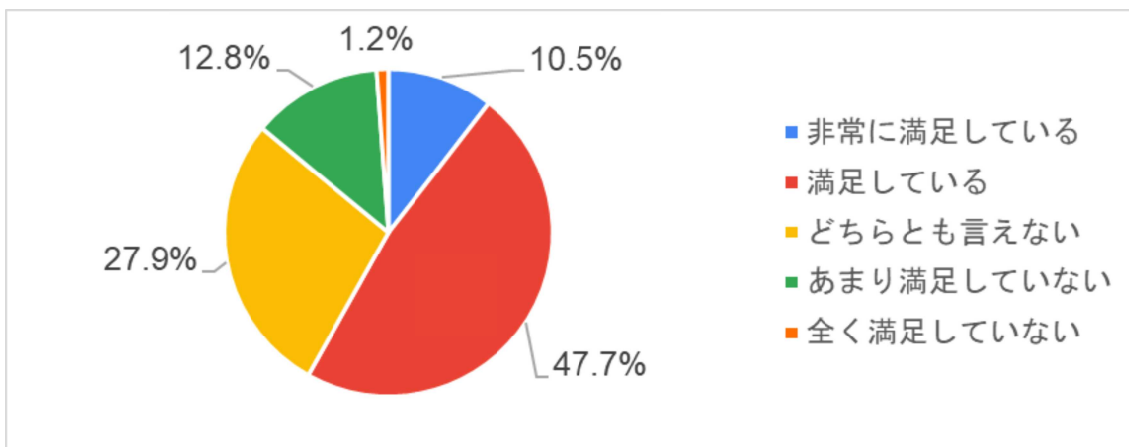
1 現在の状況について

以下の質問項目について、最もあてはまる選択肢を選んでください。なお助産師の方は、質問を助産師の場合に置き換えてお答えください（以下同じ）。

⑤現在、看護師としての仕事にやりがいを感じていますか。



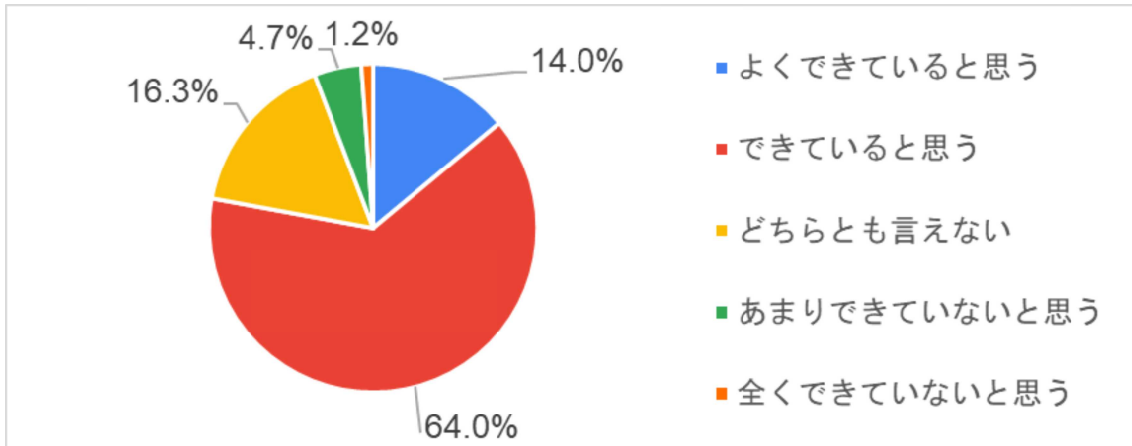
⑦現在の生活に全体として満足していますか。



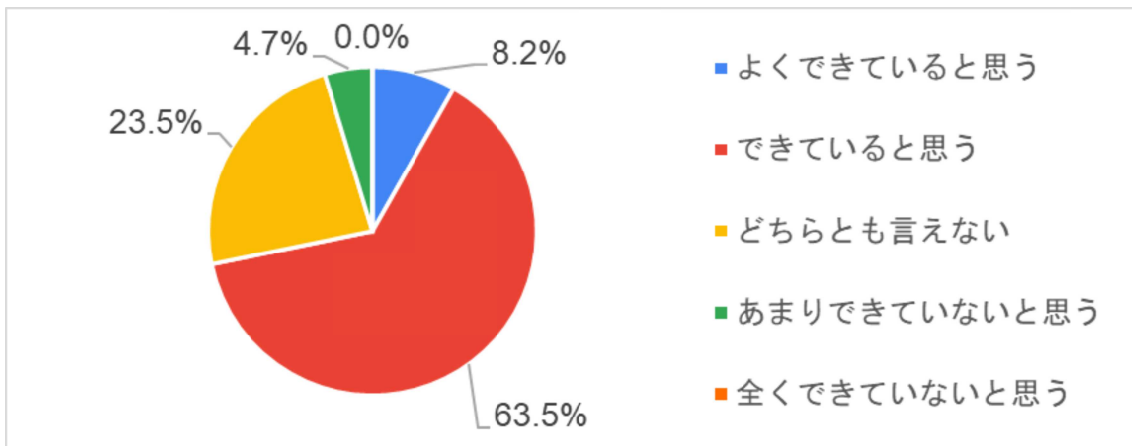
2 現在の仕事について

以下の質問項目について、最もあてはまる選択肢を選んでください。

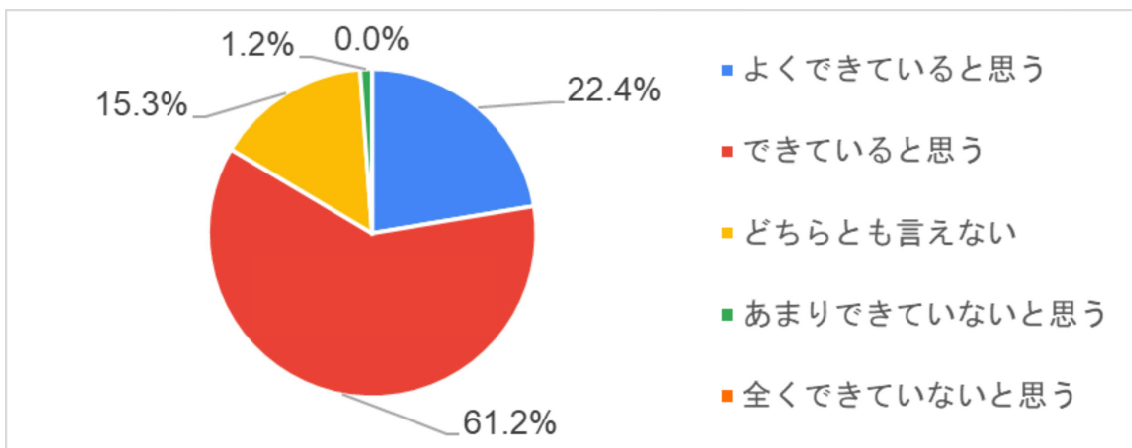
⑧日常業務で、基本的な看護技術の知識（バイタルサイン、清潔ケア、投薬管理など）を使って適切に対応できていますか。



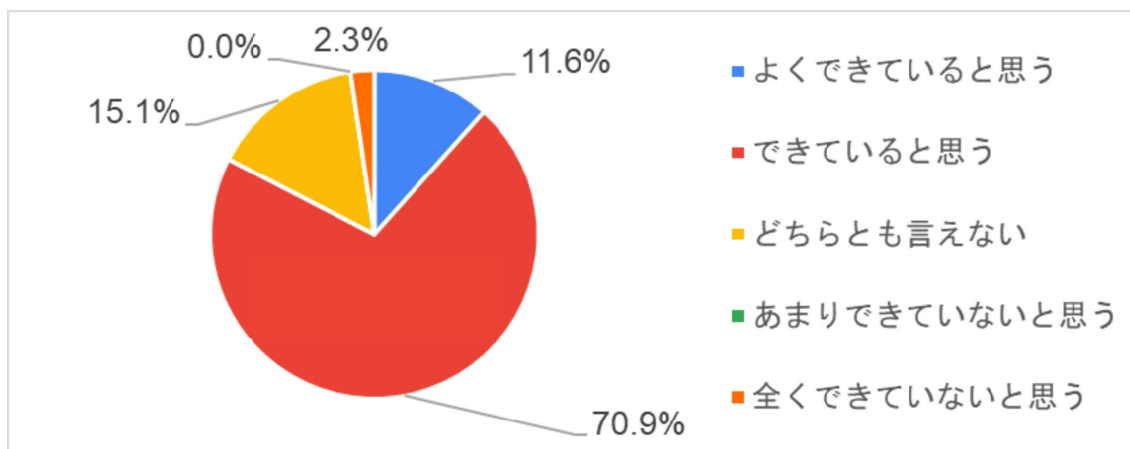
⑨日常業務で、健康と健康障害に関する基本的な知識を生かして適切に対応できていますか。



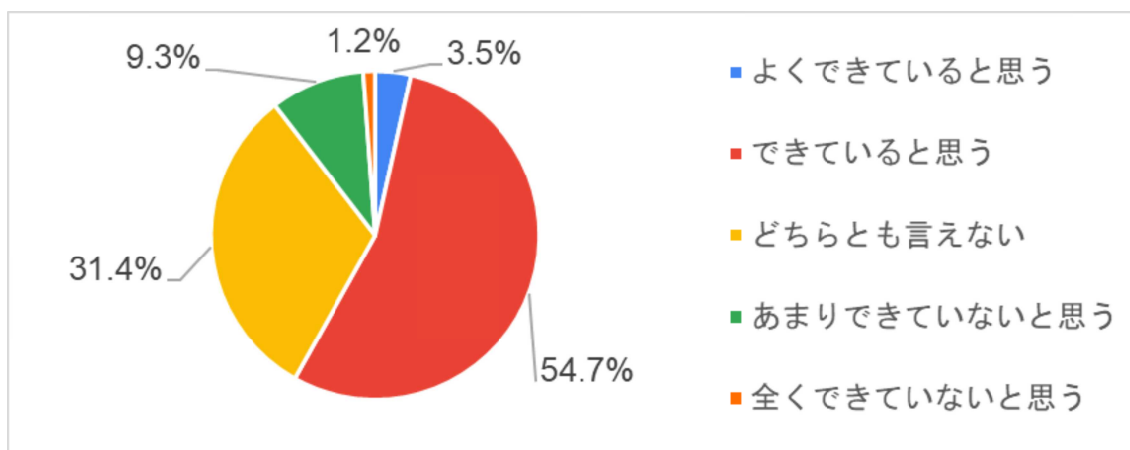
⑩他の医療スタッフとの協力関係を築き、チーム医療に貢献できていますか。



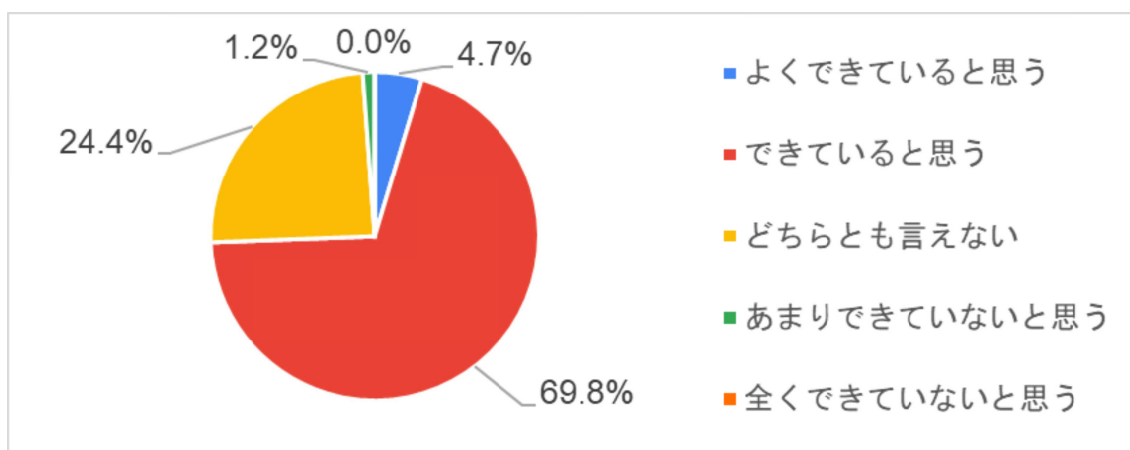
⑪患者さんや家族へのわかりやすい説明と傾聴ができていますか。



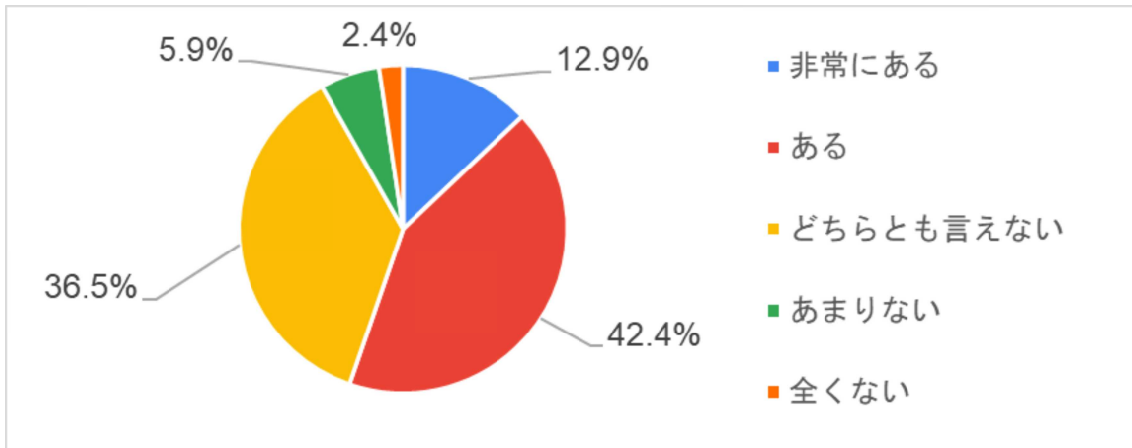
⑫的確なアセスメントに基づき、看護計画が立案できていますか。



⑬臨床現場で起こる様々な問題を的確に判断し、解決に向けて取組んでいますか。



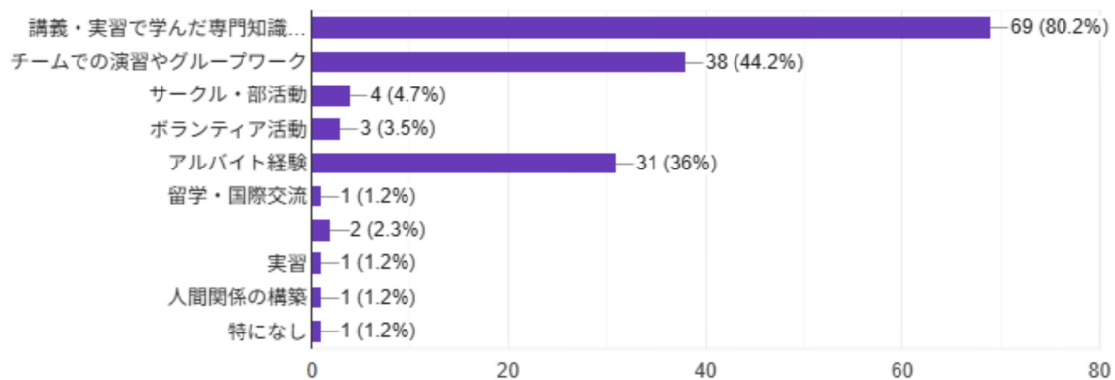
⑭新しい医療や看護の知識・技術に関心を持ち、それを学び続ける意欲がありますか。



3 大学での学びについて

以下の質問項目について、それぞれの指示にしたがって教えてください。

⑮次のうち、現在の看護師・助産師としての仕事に特に役立っていると感じる学生時代の経験を選んでください。



⑯上記で選んだ中から、特に「現在の自分の支えになっている」と感じる経験を1つ挙げ、その理由を書いてください（自由記述）。

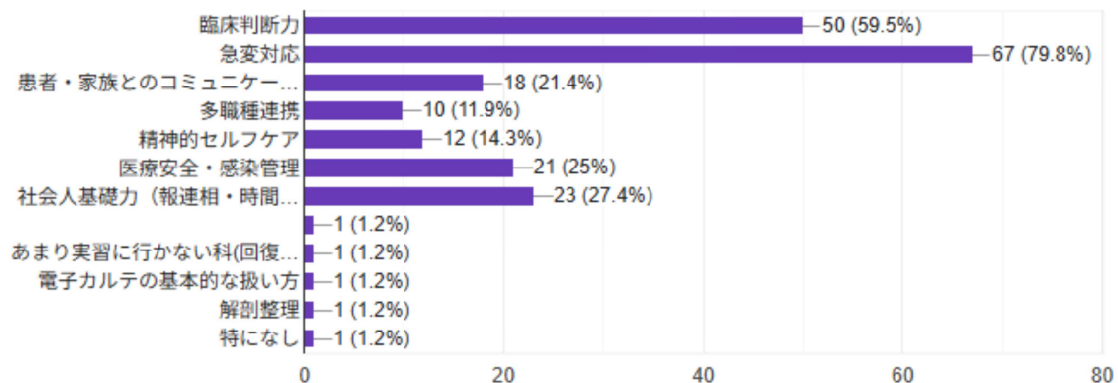
- ・現在オペ室で勤務しているが、実習の時に受け持った患者のオペをよく調べたおかげで現在勉強がしやすい(特に心外、整形)。
- ・臨床の中で国試勉強で勉強したことを思い出したりしながら取り組んでいます。
- ・時間管理やコミュニケーション力などの社会人基礎力。
- ・講義、実習で学んだ専門知識、技術・基礎をしっかりと学んで体験しておくことで現場に出ても焦る事がなく対応できるから。
- ・実習で厳しく指導頂いたことでメンタルが磨かれたところがあり、精神的に病むことなく、病院を辞めずに続けられていると感じ、それが自分の支えになっていると感じています。
- ・実習での患者さんとのコミュニケーション、疾患への理解。
- ・看護師としての身だしなみを細かく注意・指導していただいたおかげで身だしなみを褒

められている。また、コミュニケーションはアルバイトで培い、上司とのコミュニケーションが上手く行えておりスムーズに業務が遂行できている。

- ・(アルバイトで)顧客対応をたくさんしたことによるコミュニケーション能力の向上。
- ・国試勉強。
- ・講義や実習で学んだ知識があることによって、実際臨床に出て出会った患者さんの病状や治療等の意味が理解でき、根拠のある看護ができていると思う。
- ・アルバイトでの顧客とスタッフの関係性は患者さんとの対応に役立っていると考える。
- ・実習グループとの学びと支え合い。
- ・講義や実習で学んだ知識が実際の現場で活かした時は自分の支えになったと感じる。
- ・アルバイト経験。理由は人とのコミュニケーションのとり方が一番大事だから。
- ・病院に入ると自分が想像していた以上に医者や他職種との関わりがあり、チーム医療を感じているため、大学時代にさまざまな学科の方たちとのチームワークや、看護学生同士の関わりで得たコミュニケーションスキルなどは活用できていると思います。私たちの時代はコロナ禍で他学科の方達と関わることはほとんどありませんでしたが、今はコロナも落ち着いてきているため学生のうちからコミュニケーションスキルを上達させてさまざまな考え方を知るとはとても重要だと思います。
- ・大学で学んだチームでの演習を通して、コミュニケーション能力を身につけることができたことにより、分からないことは分からないままにせず、先輩ナースに質問ができている。
- ・グループワーク、サークル活動、アルバイト経験は多くの人と関われる機会なので、コミュニケーション能力や自分自身の意見を伝えるために役立っていると実感する。特に臨床現場では年上の方と関わるが多いため、言葉遣いや意見の伝え方をはじめ、相手の意見を聞くことで自分自身の知識の幅や考え方を広げることができ学びになる。
- ・指導者さんに指導してもらったこと。
- ・講義・技術。
- ・大学時代一緒に過ごした友人と病棟は違えど相談したり、仕事の情報共有しており多忙な毎日の中で自分の支えになっている。
- ・実習:臨床の空気感を事前に知ることができた。
- ・国試に向けて先生方とたくさん仲間と勉強させていただいたこと。
- ・アルバイト経験。看護師として就職するといいい意味でも悪い意味でも自分の仕事の選択肢の幅を狭めてしまい看護師という仕事に固執してしまうことが多々あると考える。就職して最初のうちは日々の業務に手一杯で余計そういった状態になる可能性が大いにある。そういった中で学生時代の多様なバイト経験は仕事観や、はたまた人生観を拡げてくれる大きな材料、きっかけになると思っている。
- ・実習。患者さんとの関わりや看護技術、時間管理など実習で経験したことが生かされていると感じることが多い。
- ・チーム活動からコミュニケーション技術やチームの大切さを学ぶことができ、現在他職種との関わりを通して感じるができている。
- ・解剖学,助産学実習。
- ・関連図等を考えて看護計画を作成するというアセスメントの基本が支えになっている。

- ・バイトをする中で、周りを良く見て次に必要なことを考える力が身についた。
- ・精神的にきつかった実習を乗り越えたので大変なことも乗り越えることができていると思う。心が強くなった。
- ・1年生か2年生の時、先生が患者になってする実技の際に、言葉のかけ方や質問の仕方について指導をいただいたのが今の患者との対応に繋がっていると思います。実践に近い看護技術の演習が看護師として働く上で基礎になっている。
- ・アルバイトと学業の両立。
- ・専門知識・技術:バイタルサインのアセスメント。
- ・実習。コロナ禍であまり実践的なことはできなかったが、いろんな科の患者さんや看護師と関わったことで現場に出たときとのギャップをあまり感じずに仕事をするのができたと感じているから。
- ・実習で実際に患者さんを受け持ち看護展開したりして関わったこと。
- ・受け持ち患者をアセスメントし関わりを持った事で患者が喜んだり、過ごしやすくなったという成功体験が看護師として働く意欲になっています。
- ・実習での経験。
- ・アルバイト。
- ・バイトや実習などでさまざまな年齢や性格の人とのコミュニケーションが今の仕事での関わり方の基盤になっていると感じる。患者さんへの声掛け、退院支援。
- ・チームでもグループワークなどで他者の意見を聞いたり、自分の意見を出したりする機会を増やすことで臨床の現場でも自分の意見を出す練習や他者の意見から新たな考えを発見できると思います。
- ・チームでの演習やグループワークは、メンバーシップの発揮に大変役立っていると思う。今よりさらに積極的に発言することへ繋げていきたい。
- ・実習です。在学中はコロナの関係もあり中々十分な実習はできなかったと思います。しかし、限られた時間でも将来自分が働く病院をイメージして実習に取り組むことで、働き始めた最初の時期に、それほど緊張したり過度に疲労することなく慣れていくことが出来ました。現場での経験は学生時代の活動の中でも特に支えとなっている部分です。

⑰卒業後に感じた「もっとこういう勉強や体験をしておけばよかった」と思う内容があれば教えてください。



卒業生アンケート調査結果のまとめ

卒業生については、回答率が35.1%と低かったことが残念でした。また、今回卒業生には勤務先病院からアンケート用紙を手交していただく方法で実施したため、すでに転・退職した方からの回答はほとんど得られておりません。今後、卒業生に対するアンケート等を実施するにはより有効な方法の検討が必要と考えています。

しかしながら、数は少なかったとはいえ、卒業生の現在の生活と仕事、そして大学での学びの振り返りについて大まかな傾向が把握できたとともに、記述回答部分では貴重な意見をいただくことができました。

まず、卒業生の現在の生活についてですが、アンケートによるとワークライフバランスについては、病院側の努力もあり、8割以上の卒業生が「できている」と答えていることが注目されます。「仕事とともに私生活も充実させたい」という気持ちが現代の若者に強い傾向がありますが、それが十分実現できる環境にあるといえそうです。ただ、看護師としての仕事のやりがいや生活全体の満足度を問う質問には6割以上の卒業生が肯定的評価をしている一方、「どちらとも言えない」という答えが一定数あったことに注意しておく必要があります。

次に現在の仕事についてですが、看護師としての基礎的な知識・技術をはじめ、コミュニケーション力や看護計画の立案、臨床現場での判断力・解決力等汎用的な力が問われる項目いずれも自己評価は高い傾向にありました。ところがこれらを雇用者（病院）向けアンケートの結果について見ると、基礎的な部分への評価は高いものの、コミュニケーション力や汎用的な力が問われる項目ではやや厳しい評価をいただきました。調査対象とした卒業生はコロナ禍で、実習にかなりの制限が加えられていたとはいえ、学科としても重く受けとめ今後の指導に生かさなければならぬと考えます。

次に大学での学びの振り返りですが、現在の看護師としての仕事に特に役立っていると感じる学生時代の経験は何かという問いに、卒業生は第1に講義や実習、第2にチーム演習やグループワーク、3番目にアルバイト経験を挙げ、サークル活動やボランティアを挙げる者が少なかったことに注意しておきたいと思います。実際に学生は日頃の授業や実習に一生懸命です。また生活のためにアルバイトを必須とする学生も多いです。そのような中で、サークルやボランティアをする余裕がないと考える学生が多いという現実です。アルバイトの中で社会人としてのマナー等を経験することも大切なことですが、サークルやボランティアも学生の視野を広げ、様々な人と関わる貴重な経験であることに留意しておきたいと考えます。

最後に、卒業生に「大学でもっと勉強や体験をしておきたかった内容」を問う質問に、特に多かった答えは「急変対応」と「臨床判断力」でした。上で述べたように、雇用者（病院）アンケートで評価が低かった汎用的能力に関わることですが、臨床の現場に出た卒業生もこのことは痛切に感じていることがわかります。また、雇用者（病院）アンケートの中で、ある病院からは「自ら考え抜く力を大学で養って欲しいが、その力を発揮するには病院の環境が必要で、大学と現場双方の努力が必要」というご意見をいただきました。学科といたしましては、今後病院との情報交換・連携を大切にしながら汎用的能力の育成に取り組んでまいりたいと考えております。